

別表第4  
施工管理記録様式

# 施工管理記録様式

様式－ 1	施工管理図表 表紙
様式－ 2	施工計画表
様式－ 3	出来形管理図
様式－ 4	出来形管理図（整地工用）
様式－ 5	出来形管理図（暗渠排水用）
様式－ 6	出来形管理図（構造物用）
様式－ 7	品質管理図（生コンクリート）
様式－ 8	測定結果一覧表
様式－ 9	スランプ試験一覧表
様式－ 1 0 -1	$\bar{X}-R$ 管理データシート
様式－ 1 0 -2	$\bar{X}-R$ 管理データシート
様式－ 1 1	$\bar{X}-R$ 管理図
様式－ 1 2	材料検収簿
様式－ 1 3 -1	二次製品品質管理図（一般製品）
様式－ 1 3 -2	二次製品品質管理図（管製品）
様式－ 1 4	鋼管溶接測定結果一覧表
様式－ 1 5	鋼管溶接塗覆装点検表
様式－ 1 6	管水路ジョイント間隔測定結果一覧表
様式－ 1 7	埋設とう性管たわみ量管理表
様式－ 1 9	杭打ち成績表
様式－ 2 0	塩化物含有量試験
様式－ 2 1	路面の平坦性試験表
様式－ 2 2	ブルーフローリング試験
様式－ 2 3	コンクリート養生温度管理表
様式－ 2 4 -1	$X-R_s-R_m$ 管理データシート
様式－ 2 4 -2	$X-R_s-R_m$ 管理データシートの2
様式－ 2 5	$X-R_s-R_m$ 管理図

年度 事業 地区

工程管理図表  
出来形管理図表  
品質管理図表  
安全管理資料

工事

受注者

工種	番号	管理項目	番号	管理項目	番号	管理項目



出来形管理図

		監督員		現場代理人又は主任技師		施工管理責任者				
1 工事名		2 工種		3 項目		4 箇所		5 測定者		
データの記録表	測 点									
	距 離									
		設 計 値								
		実 測 値								
		設計値との差								
		設 計 値								
		実 測 値								
		設計値との差								
		設 計 値								
		実 測 値								
		設計値との差								
		設 計 値								
		実 測 値								
		設計値との差								
	出来形管理									
測定年月日										
略図			測定基準	工 種						
				基準高	上 限					
					下 限					
				厚さ	上 限					
		下 限								

出来形管理図(整地工用)

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者
		No.

工事名	工種	測 定	測 定
出来形管理図		面積	面積
測定記録 上段:心土測定 下段:表土測定 排水路側 排水路側 測定点の数: n =		〇計画面積: EL = _____ m 〇心土標高: 砂質土、砂利混じり土、粘土 〇水戸尻標高: EL = _____ m 測定点の数: n = _____ 点	〇計画面積 路 図 m
心 土	施工年月日: _____ 年 _____ 月 _____ 日 測定年月日: _____ 年 _____ 月 _____ 日 測定者: _____ BM: _____ m BS: _____ m IH: (BM+BS) _____ m $FS = IH - \sum FS / n$ = $IH - ( \quad ) / ( \quad )$ ) / ( _____ ) = _____ m	面積計算書(ヘロン式) a _____ m b _____ m c _____ m 面積 _____ m <sup>2</sup> a _____ m b _____ m c _____ m 面積 _____ m <sup>2</sup> a _____ m b _____ m c _____ m 面積 _____ m <sup>2</sup>	a _____ m b _____ m c _____ m 面積 _____ m <sup>2</sup> a _____ m b _____ m c _____ m 面積 _____ m <sup>2</sup>
表 土	施工年月日: _____ 年 _____ 月 _____ 日 測定年月日: _____ 年 _____ 月 _____ 日 測定者: _____ BM: _____ m BS: _____ m IH: (BM+BS) _____ m $FS = IH - \sum FS / n$ = $IH - ( \quad ) / ( \quad )$ ) / ( _____ ) = _____ m	面積計算書(ヘロン式) a _____ m b _____ m c _____ m 面積 _____ m <sup>2</sup> a _____ m b _____ m c _____ m 面積 _____ m <sup>2</sup> a _____ m b _____ m c _____ m 面積 _____ m <sup>2</sup>	a _____ m b _____ m c _____ m 面積 _____ m <sup>2</sup> a _____ m b _____ m c _____ m 面積 _____ m <sup>2</sup>
出来形管理図 基準高(平均)の測定は、原則として10a当たり3点とする。 管理図には、段毎に線種を変えて表示すること。(上段: _____、中斷: _____、下段: _____、最下段: _____) 略図には設計図を利用してよい。		〇計画面積の計 = _____ m <sup>2</sup> 集測面積( _____ ) / 計画面積( _____ ) × 100 = _____ %	〇計画面積の計 = _____ m <sup>2</sup> 集測面積( _____ ) / 計画面積( _____ ) × 100 = _____ %

出来形管理図(暗渠排水用)

地区名		工事名		プロット番号		現場代理人又は主任技術者		施工管理責任者									
測定者																	
<測定結果一覧表>																	
列番	面標高(FS)	吸水渠布設深(FS)					集水渠布設深(FS)			排水路高	規格	数量					
		1	2	3	4	落差	延長	勾配	1				2	落差	延長	勾配	
I	指定値																
	実測FS																
	布設深																
II	指定値																
	実測FS																
	布設深																
III	指定値																
	実測FS																
	布設深																
IV	指定値																
	実測FS																
	布設深																
<配置見取図>										<記入注>							
排水側 ↓										1.見取図に写真撮影箇所を一印で明示すること。 2.掘削時点の地下水深を測定記入すること。 3.見取図に現況土性を記入すること。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  軟弱         </div> <div style="text-align: center;">  特に軟弱         </div> </div>		4.見取図に付属品施工箇所を記号で明示すること。					
↑ 用水側																	
										① エルボ   ② チーズ   ③ 枝管   ④ 異型ジョイント   ⑤ キャップ   ⑥ 水栓   ⑦ 水閘							
										もみがら							

出来形管理図(構造物用)

1.地区名	2.工事名	3.工程	4.項目	5.箇所	監督員 副専任人又は主任技術者 施工管理責任者																																																											
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">施工月日</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>実測月日</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>測定者</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>基準値</td> <td>基準値</td> <td>基準値</td> <td>基準値</td> <td>基準値</td> </tr> <tr> <td>上限</td> <td>上限</td> <td>上限</td> <td>上限</td> <td>上限</td> </tr> <tr> <td>下限</td> <td>下限</td> <td>下限</td> <td>下限</td> <td>下限</td> </tr> <tr> <td>基準高</td> <td>基準厚さ</td> <td>基準巾</td> <td>基準高さ</td> <td>基準長さ</td> </tr> <tr> <td>上限</td> <td>上限</td> <td>上限</td> <td>上限</td> <td>上限</td> </tr> <tr> <td>下限</td> <td>下限</td> <td>下限</td> <td>下限</td> <td>下限</td> </tr> <tr> <td>基準高</td> <td>基準厚さ</td> <td>基準巾</td> <td>基準高さ</td> <td>基準長さ</td> </tr> <tr> <td>上限</td> <td>上限</td> <td>上限</td> <td>上限</td> <td>上限</td> </tr> <tr> <td>下限</td> <td>下限</td> <td>下限</td> <td>下限</td> <td>下限</td> </tr> </table>					施工月日					実測月日					測定者					基準値	基準値	基準値	基準値	基準値	上限	上限	上限	上限	上限	下限	下限	下限	下限	下限	基準高	基準厚さ	基準巾	基準高さ	基準長さ	上限	上限	上限	上限	上限	下限	下限	下限	下限	下限	基準高	基準厚さ	基準巾	基準高さ	基準長さ	上限	上限	上限	上限	上限	下限	下限	下限	下限	下限
施工月日																																																																
実測月日																																																																
測定者																																																																
基準値	基準値	基準値	基準値	基準値																																																												
上限	上限	上限	上限	上限																																																												
下限	下限	下限	下限	下限																																																												
基準高	基準厚さ	基準巾	基準高さ	基準長さ																																																												
上限	上限	上限	上限	上限																																																												
下限	下限	下限	下限	下限																																																												
基準高	基準厚さ	基準巾	基準高さ	基準長さ																																																												
上限	上限	上限	上限	上限																																																												
下限	下限	下限	下限	下限																																																												
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>表示内容は例であり、管理する「工種」「項目」を記載すること。</p> </div>																																																																
<p>注</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 構造図で管理を行なってもよい。</li> <li>2. この場合は測定寸法を未書きする。</li> <li>3. 上記による場合は管理基準値一覧表をつける。</li> </ol>																																																																
<p>記 事</p>																																																																



品質管理図(生コンクリート)

工事名 番 採 取 日 月 日	規格 設計強度 N/mm <sup>2</sup> スランブ cm 空気量 %	空気量 スランブ 測定値 %	試験日 月 日	養生 日数 日	養生 区分 水中 現場	供試体 番号 1 2 3 平均	重量 kg	破壊荷重 t	工 種										生コン納入業者	備 考
									圧縮(曲げ)強度試験											
									圧縮強度	0	5	10	15	20	25	30	35	摘 要		
月 日 曜	設計強度 N/mm <sup>2</sup> スランブ cm 空気量 %	%	月 日	7日	水中	1													推定強度( )	
						2														
						3 平均														
月 日 曜	設計強度 N/mm <sup>2</sup> スランブ cm 空気量 %	%	月 日	28日	水中	1													推定強度( )	
						2														
						3 平均														
月 日 曜	設計強度 N/mm <sup>2</sup> スランブ cm 空気量 %	%	月 日	7日	水中	1													推定強度( )	
						2														
						3 平均														
月 日 曜	設計強度 N/mm <sup>2</sup> スランブ cm 空気量 %	%	月 日	28日	水中	1													推定強度( )	
						2														
						3 平均														
月 日 曜	設計強度 N/mm <sup>2</sup> スランブ cm 空気量 %	%	月 日	7日	水中	1													推定強度( )	
						2														
						3 平均														

監督員  
現場代理人  
主任技術者  
No.

### 測定結果一覧表

工種 \_\_\_\_\_

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

項目 \_\_\_\_\_

測定者 \_\_\_\_\_

測点	設計値 A	実測値 B	設計値との差 C=B-A	規格値 D	規格値との差 E=B-D

[注] (イ) 出来形の場合はE欄は記入する必要はない。  
 (ロ) 品質の場合は必要と思われる欄のみ記入し、他は空欄とする。

様式 9

## スランプ試験一覧表

工事名： \_\_\_\_\_

工種： \_\_\_\_\_

測定者： \_\_\_\_\_

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

圧縮(曲げ)強度		N/mm <sup>2</sup>			粗骨材の最大寸法		mm	
スランプの値		cm			水セメント比		%	
測定番号	測定月日	気温 °C	打設量 m <sup>3</sup>	A P	M M	スランプ の測定 値 cm	判定	備考

No.

$\bar{X}$ -R管理データシート(1)

		監督員		現場代理人又は主任技術者		施工管理責任者			
名 称						期 間	自	年 月 日	
品 質 ・ 特 性							至	年 月 日	
測 定 単 位		日 標 準 量							
規格限界	上 限 値	試 料		大 き さ					
	下 限 値			間 隔		測 定 者			
設 計 基 準 値		作 業 機 械 名						作 成 者	

月 日	組の番号	測 定 値					計 $\Sigma x$	平均値 $\bar{x}$	範 囲 R				
		x1	x2	x3	x4	x5							
	1												
	2												
	3										$\bar{x}$	R	
	4									平均			
	5									累計			
	小 計									小 計			
	6												
	7												
	8												
	9									平均			
	10									累計			
	小 計									小 計			
	11												
	12												
	13												
	14												
	15												
	16												
	17												
	18												
	19									平均			
	20									累計			
	小 計									小 計			
記 事										n	d <sub>2</sub>	A <sub>4</sub>	D <sub>2</sub>
										2	1.13	1.88	3.27
										3	1.69	1.02	2.57
										4	2.06	0.73	2.28
										5	2.33	0.58	2.11

注) 1.規格限界、設計基準値は設計図書、仕様書に定められた値を記入する。  
 2.管理限界線の引き直しは、5-5-10-20方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間とする。  
 - - - - - 上記の管理限界を適用する区間を示す。

3.21組~40組までは別に新しいデータシートに記入する。以下20組ごとに同様とする。

X-R管理データシート(1)の2

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

月 日	組の番号	測 定 値					計 $\sum x$	平均値 $\bar{x}$	範 囲 R					
		x1	x2	x3	x4	x5								
	小 計									平均	$\bar{x}$	R		
										累計				
										小計				
	小 計									平均				
										累計				
										小計				
記事											n	d <sub>2</sub>	A <sub>4</sub>	D <sub>2</sub>
											2	1.13	1.88	3.27
											3	1.69	1.02	2.57
											4	2.06	0.73	2.28
											5	2.33	0.58	2.11

注) 1.管理限界線の引き直しは、5-5-10-20-20方式による。

(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間とする。  
 ..... 上記の管理限界を適用する区間を示す。

2.以下最近の20組(平均値  $\bar{x}$  を1個とする)のデータを用い、次の20個に対する管理限界とする。

**X-R管理図**

	監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者	
設計基準値				
名称				
品質特性	規格値限界	日標準量		
		上 限 値	下 限 値	
測定単位				
測定方法				
作業機械名	試料	測定者		
		間 隔	大 き さ	
期 間		自 年 月 日	至 年 月 日	
$\bar{x}$	<table border="1" style="width:100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align:center;">R</td></tr> </table>			R
R				
組 号				
記 事				

注) 1.管理図には、別紙「X-R管理データシート(1)」から記入する。  
 2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

### 材料検収簿

監督員	現場代理人又は主任技術者

工事名				工事期間			
資材の名称				規格			
納入者				設計数量			
月日	納入数量	不合格	累計	合格	累計	検査数量	備考
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							
. .							

- ・外観、形状については、全数を検査する。
- ・寸法(重量)については、100個又はその端数毎に、1個を検査する。  
(検査結果を、別表に記入する。)





### 二次製品品質管理図(管製品)

監 督 員	代 理 人 又 は 主 任 技 術 士	施 工 管 理 責 任 者	No.
-------------	------------------------------------------------	---------------------------------	-----

製品名 工事名	規格		納入者名	寸法検査												その他 (外觀等)	備考 (製造月日等)			
番号	納入月日	検収月日	測定	外圧検査	重量 kg	配筋検査														
							設計値													
			実測値																	
			設計値との差																	
			実測値																	
			設計値との差																	
			実測値																	
			設計値との差																	
			実測値																	
			設計値との差																	
			実測値																	
			設計値との差																	
			実測値																	
			設計値との差																	
			実測値																	
			設計値との差																	
			実測値																	
			設計値との差																	
測定基準	試験基準	外観、形状等																		
標準ロット数																				

原則として、100個又はその端数ごとに1個を抽出して検査を行なうこと。

## 鋼管溶接測定結果一覧表

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

工事名 : \_\_\_\_\_ 受注者 : \_\_\_\_\_

工種名 : \_\_\_\_\_ 測定者 : \_\_\_\_\_

測定位置	実 測 値				規格値	摘 要
	X	Y	X'	Y'		

様式 15

### 鋼管溶接塗覆装点検表

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

工事名： \_\_\_\_\_

受注者： \_\_\_\_\_

測定者： \_\_\_\_\_

測定位置	工種	項目	判定		摘要
			良	否	

管水路ジョイント間隔測定結果一覧表

監督員	現場代理人又は主任技師者	施工管理責任者

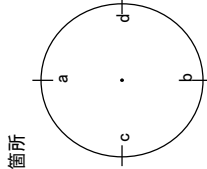
受注者

工事名

測定者

工種名

工種名 (呼び径)	測定年月日	測定位置 (管番号)	測定値(接合時)				平均	判定	備考	測定年月日	測定値(埋戻後)				平均	判定	備考
			a	b	c	d					a	b	c	d			



測定箇所

(注1) 規格値は、埋戻しの値であり、原則として4箇所のうち1箇所でもこの値を超えてはならない。  
 (注2) 接合時の測定は、呼び径700mm以下の場合、管の外から確認してもよい。  
 また、埋戻し後の測定は、PC管等重要な管を除き呼び径700mm以下の測定は必要ない。  
 (注3) 施工データが安定するまでの間は、上表の4箇所にこだわらず密に測定すること。

基準	値

# 埋設とう性管たわみ量管理表

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

工 事 名 : \_\_\_\_\_

受 注 者 : \_\_\_\_\_

管 種 ( 長 さ ) : \_\_\_\_\_

測 定 者 : \_\_\_\_\_

測定位置 (管番号)	管 据 付 時				管 頂 埋 戻 し 時				埋 戻 し 完 了 時				D × t(mm) (内径) (管厚)
	Dv	たわみ率	Dh	たわみ率	Dv	たわみ率	Dh	たわみ率	Dv	たわみ率	Dh	たわみ率	
	mm	%	mm	%	mm	%	mm	%	mm	%	mm	%	

たわみ率の計算

$\Delta X / 2R \times 100(\%)$

2R: 管厚中心直径

$\Delta X = [2R - (Dv + t)]$  又は  $[2R - (Dh + t)]$

t: 管厚

- 注) 1. マーキング位置における測定値を記入する。
- 2. 測定については「土木工事施工管理基準」 管水路工事 管水路(埋設とう性管)の測定基準による。
- 3. 「矢板引抜き時」の測定値は「管頂埋戻し時」の欄に測定値を記入する。

## 杭打ち成績表

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

工事名 : \_\_\_\_\_ 受注者 : \_\_\_\_\_

工種名 : \_\_\_\_\_ 測定者 : \_\_\_\_\_

杭打ち み 月日	杭番号	杭規格	測定時杭深度 (m)	ハンマー落下高 (cm)	打込回数	リバウンド (cm)	平均沈下量 (cm)	支持力 (kN)	摘要

杭配置図

適用公式名: \_\_\_\_\_

設計支持力: \_\_\_\_\_

### 塩化物含有量試験

工事名	工種	監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者
コンクリートの規格	N/mm <sup>2</sup> 、スランプ	測定者		
設計基準強度	cm、粗骨材最大寸法	単位水量		kg/m <sup>3</sup>
骨材の産地	セメントの種類	測定器名		

測定年月日	年	月	日	平均
測定番号	1	2	3	平均
測定器の読み				
塩素イオン濃度				%
平均塩化物量 (平均値)	× (単位水量)			=
試験紙添付				(合否)

測定年月日	年	月	日	平均
測定番号	1	2	3	平均
測定器の読み				
塩素イオン濃度				%
平均塩化物量 (平均値)	× (単位水量)			=
試験紙添付				(合否)

### 路面の平坦性試験表(標準偏差)

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

工事名		測定車線	
施工地名		測定器の種類	
		測定年月日	
受注者		測定者	

標準偏差の計算	$\bar{R} = \frac{R_1 + R_2 + R_3 + \dots + R_n}{n}$ $\sigma = \frac{\bar{R}}{d_2}$	d <sub>2</sub> の値	
		グループの大きさ	d <sub>2</sub>
		6	2.53
		7	2.70
		8	2.85
		9	2.97
10	3.08		

グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)	グループ	範囲(R)

注) 1.測定値を作成したのち本表で標準偏差を求める。  
 2.測定方法は「アスファルト舗装要綱」による。



# プルーフローリング試験

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

工事名 : \_\_\_\_\_

受注者 : \_\_\_\_\_

工種名 : \_\_\_\_\_

測定者 : \_\_\_\_\_

項目	事項				備考
天候	測定面の含水状況				
試験区間	No. _____ ~ No. _____				
載荷車	型式		接地圧		
載荷状況	予定載荷回数		回	本載荷速度	km/h

試験結果									
視察展開図	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: none;">_____</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">No.      No.      No.      No.      No.      No.      No.</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○-----○-----○-----○-----○-----○-----○</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">_____</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">_____</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">No.      No.      No.      No.      No.      No.      No.</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○-----○-----○-----○-----○-----○-----○</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">_____</td> </tr> </table>	_____	No.      No.      No.      No.      No.      No.      No.	○-----○-----○-----○-----○-----○-----○	_____	_____	No.      No.      No.      No.      No.      No.      No.	○-----○-----○-----○-----○-----○-----○	_____
	_____								
No.      No.      No.      No.      No.      No.      No.									
○-----○-----○-----○-----○-----○-----○									
_____									
_____									
No.      No.      No.      No.      No.      No.      No.									
○-----○-----○-----○-----○-----○-----○									
_____									
視察記事									
異常個所の処置									

### コンクリート養生温度管理表

工事名 \_\_\_\_\_

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

工種	施工箇所		規格							
	年月日	打設量	m <sup>3</sup>	養生方法						
1.打設年月日										
養生月日	天候	気温 最高	養生温度 (測定時刻)	管	理	図	°C			
								最低	12	10
2月日		°C	°C							
3月日										
4月日										
5月日										
6月日										
7月日										

工種	施工箇所		規格							
	年月日	打設量	m <sup>3</sup>	養生方法						
1.打設年月日										
養生月日	天候	気温 最高	養生温度 (測定時刻)	管	理	図	°C			
								最低	12	10
2月日		°C	°C							
3月日										
4月日										
5月日										
6月日										
7月日										

工種	施工箇所		規格							
	年月日	打設量	m <sup>3</sup>	養生方法						
1.打設年月日										
養生月日	天候	気温 最高	養生温度 (測定時刻)	管	理	図	°C			
								最低	12	10
2月日		°C	°C							
3月日										
4月日										
5月日										
6月日										
7月日										

工種	施工箇所		規格							
	年月日	打設量	m <sup>3</sup>	養生方法						
1.打設年月日										
養生月日	天候	気温 最高	養生温度 (測定時刻)	管	理	図	°C			
								最低	12	10
2月日		°C	°C							
3月日										
4月日										
5月日										
6月日										
7月日										

養生温度(及び気温)は、毎日時刻を定めて1回以上測定すること。  
「施工箇所」には、測点又は施工部分名を記入する。「規格」には、コンクリートの設計基準強度等を記入する。

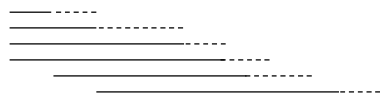
X-Rs-Rm管理データシート

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

名称		工事名		期間	自	年 月 日
品質・特性		事業所名			至	年 月 日
測定単位		日標準量				
規格限界	上限値	試料	大きさ	測定者		
	下限値		間隔			
設計基準値		作業機械名		作成者		

月 日	試験番号	測定値				計 Σ	平均値 X̄	移動範囲 Rs	測定値内の範囲 Rm	X ± E <sub>2</sub> · R s =				
		a	b	c	d					D <sub>4</sub> · R̄ s =				
	1									D <sub>4</sub> · R̄ m =				
	2									D <sub>4</sub> · R̄ m =				
	3									X	Rs	Rm		
	4									平均	X̄ =	R̄ s =	R̄ m =	
	5									累計				
	小計									小計				
	6									X ± E <sub>2</sub> · R s =				
	7									D <sub>4</sub> · R̄ s =      D <sub>4</sub> · R̄ m =				
	8									平均	X̄ =	R̄ s =	R̄ m =	
	小計									累計				
	9									X ± E <sub>2</sub> · R s =				
	10									D <sub>4</sub> · R̄ s =				
	11									D <sub>4</sub> · R̄ m =				
	12									平均	X̄ =	R̄ s =	R̄ m =	
	13									累計				
	小計									小計				
	14									X ± E <sub>2</sub> · R s =				
	15									D <sub>4</sub> · R̄ s =				
	16									D <sub>4</sub> · R̄ m =				
	17									平均	X̄ =	R̄ s =	R̄ m =	
	18									累計				
	19													
	小計									小計				
記事										n	d <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>	E <sub>2</sub>	
										2	1.13	3.27	2.66	
										3	1.69	2.57	1.77	
										4	2.06	2.28	1.46	
										5	2.33	2.11	1.29	

- 注) 1.規格限界、設計基準値は設計図書に定められた値を記入する。  
 2.管理限界線の引き直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。



(備考) ————— 管理限界計算のための予備データの区間とする。  
 - - - - - 上記の管理限界を運用する区間を示す。

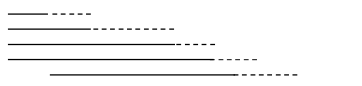
3.以下、最近20個(平均値X̄を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

X-Rs-Rm管理データシートの2

監督員	現場代理人又は主任技術者	施工管理責任者

月 日	試験番号	測定値				計 Σ	平均値 X̄	移動範囲 Rs	測定値内の範囲																				
		a	b	c	d				Rm																				
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$																			
										<table border="1"> <tr> <td>平均</td> <td>X̄ =</td> <td>R̄s =</td> <td>R̄m =</td> </tr> <tr> <td>累計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平均	X̄ =	R̄s =	R̄m =	累計														
平均	X̄ =	R̄s =	R̄m =																										
累計																													
	小計									小計																			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$																			
										<table border="1"> <tr> <td>平均</td> <td>X̄ =</td> <td>R̄s =</td> <td>R̄m =</td> </tr> <tr> <td>累計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平均	X̄ =	R̄s =	R̄m =	累計														
平均	X̄ =	R̄s =	R̄m =																										
累計																													
	小計									小計																			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$																			
										<table border="1"> <tr> <td>平均</td> <td>X̄ =</td> <td>R̄s =</td> <td>R̄m =</td> </tr> <tr> <td>累計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平均	X̄ =	R̄s =	R̄m =	累計														
平均	X̄ =	R̄s =	R̄m =																										
累計																													
	小計									小計																			
										$\bar{X} \pm E_2 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_s =$ $D_4 \cdot \bar{R}_m =$																			
										<table border="1"> <tr> <td>平均</td> <td>X̄ =</td> <td>R̄s =</td> <td>R̄m =</td> </tr> <tr> <td>累計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平均	X̄ =	R̄s =	R̄m =	累計														
平均	X̄ =	R̄s =	R̄m =																										
累計																													
	小計									小計																			
記事									<table border="1"> <tr> <td>n</td> <td>d<sub>2</sub></td> <td>D<sub>4</sub></td> <td>E<sub>2</sub></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1.13</td> <td>3.27</td> <td>2.66</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1.69</td> <td>2.57</td> <td>1.77</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2.06</td> <td>2.28</td> <td>1.46</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2.33</td> <td>2.11</td> <td>1.29</td> </tr> </table>	n	d <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>	E <sub>2</sub>	2	1.13	3.27	2.66	3	1.69	2.57	1.77	4	2.06	2.28	1.46	5	2.33	2.11	1.29
n	d <sub>2</sub>	D <sub>4</sub>	E <sub>2</sub>																										
2	1.13	3.27	2.66																										
3	1.69	2.57	1.77																										
4	2.06	2.28	1.46																										
5	2.33	2.11	1.29																										

注) 1.管理限界線の引き直しは5-3-5-7-10-10-10方式による。



(備考) ———— 管理限界計算のための予備データの区間とする。  
 - - - - - 上記の管理限界を運用する区間を示す。

2.以下、最近20個(平均値X̄を1個とする)のデータを用い、次の10個に対する管理限界とする。

X-Rs-Rm管理図

	監督員	現場代理人又は主任技師者	施工管理責任者
設計基準値			
名称	工 事 名		
品質特性	日 標 準	期 間	自 年 月 日
測定単位	規格値限界	至 年 月 日	
測定方法	上 限 値		
作業機械名	下 限 値		
	試 料		
	間 隔		
測 定 者			
X			
Rs			
Rm			
組の番号			
記 事			

注) 1.管理図には、別紙「X-Rs-Rm管理データシート」から記入する。  
2.記事欄には、異常原因、その他必要事項を記入する。

